

エスコラピオス会の宣教

アダム・クジャク

私たちエスコラピオス修道会は戸部をはじめ、四日市に教会を持ち、駒場の修道院も 毎日ミサを捧げ宣教活動に勤しんでいます。そして四日市は幼稚園、海星中学・高等学校を持っています。戦後の復興の最中での日本、物がなく、戦争で傷ついた人々のなかで、今後の日本を担っていく青少年の教育を考え、四日市に海星学校を建てました。フェリチアーノ神父様始め、長い間校長先生をしていたリベロ神父様、その他沢山の修道者たちが尽力されました。エスコラピオス修道会の創立者である聖ヨセフ・カラサンスの教育に対する思いは彼の時代の貧しく読み書きも出来ない、教育も受けられない子どもたちのために、無償で学べる場所を提供しました。でもこの高い識字率をもつ日本での教育はどうしたら良いか考えました。確かに医学や科学、情報社会等目覚ましいばかりに進歩しました。しかしその反面、自然の異常気象や世界情勢の戦禍におびえ、富むものと貧しいものとの格差は大きくなっています。この激動の世界の中で、日本の若者はどのような考えを持っているのでしょうか。聖ヨセフ・カラサンスの教育理念は、教師自身が 高い知識を有するだけではなく、その知識を有効的に教える方法、すなわち教授法の在り方を非常に重視しました。このやり方を現代に置き換えると、人間は暗黙のうち に知識がそこにあれば、知ろうとする力がある。その知識は個人だけのものにせず教師と生徒、教師同士、生徒同士共有し、助け合う。そうすることによって、教師、生徒の個人の能力の育成や人間形成、学校全体の向上など実現できるのではないのでしょうか。教会も同じです。聖書に書かれているように、人はそれぞれのタレント（才能）を与えられています。自分のものだけにして埋もれさせておくのではなく、活かしていくことが自分のため、また他の者との間にフィリア＝愛・友愛が生まれるのではないのでしょうか。失敗することを恐れず、何度でもチャレンジしていく精神を育て、聖母マリア様の謙遜で、あふれるほどの優しさ、わが子を十字架に架けられた苦しみを 知っておられる方、聖霊に導かれるままに信仰の道を歩まれる方。そのマリア様に神様との執り成しを願いながら、私たちも祈り、福音をのべ伝えましょう。